

[036] 中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/13177>

出版情報：中国文学論集. 36, 2007-12-25. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：

ここに『中国文学論集』第三十六号をお届けします。経済的にも厳しい学会運営のため、十分な頁数を用意できないもどかしさがあるのですが、今年も一〇篇、時代や研究ジャンル、また、各執筆者の顔ぶれにおいても、ほぼ均整の取れた論文集ができあがりしました。これもひとえに会員皆様の常日頃からのあたたかい励ましのおかげであると思っております。感謝しております。

さて、数年前にも既に一度経験済みではありましたが、当研究室の「助手」ポストが無くなりました。いや、全国の大学において一斉に、この四月「助教」が「准教授」に改称し、「助手」についても「助教」という新しい名称となったのですが、単に名称のみの変更である「助教 准教授」の改変に比べ、「助手 助教」の変動は、人員の面でも、また職務内容においても著しく異なるものとなりました。すなわち、もはや過去において慣習的に認められていた「研究室所属の助手」というものは無くなり、個別に研究室が与えられた「学部直属の助教」となったのです（ちなみに、平成十九年度の文学部助教は一名）。

したがって、もし今後、わが中国文学研究室の出身者から「助教」となる者が選ばれたとしても、もはやそれは過去の「助手」では無く、大学全体の諸業務をになう多忙な工作人員であり、つまりは、もう、わが九州大学中国文学会の中核を支える「縁の下の力持ち」の復活は望むべくも無いのであります。

しかし、たいへん幸いなことに現在の中文研究室は、過去の助手経験者およびこれまでの助手業務を知る院生・学生諸君の相互連携によって、年一冊の会報編集、そして年六回の研究会開催がしっかりと保たれています。特に研究会（文藝座談会）については近況を報告すれば、毎回の報告内容に随って、九大文学部内の他のさまざまな講座の院生や学生諸君、更には近隣する他大学から「ホームページで知った」という学生さんの傍聴もあり（もちろん随時歓迎しています）、状況はむしろ以前よりも発展・拡大の傾向にあります。助手の消滅が、院生・学生ひとりひとりの意識を改革し、その悲しみを、逆に自分たちが成長・前進する動力源としているのであります。

文藝座談会は、かくも、けなげな院生・学生諸君によって続けられています。次回も是非お越し下さい。

（静永）